

Syndicat CGT Toyota
ZI n°9 BP 16
59264 ONNAING
FRANCE

2006-01-16

NHK 会長殿へ

会 長 殿

先ず、新年の挨拶をさせていただきます。素晴らしい年になりますように。

去年 12 月半ば頃、フランスの Valenciennes 市内にあるトヨタ工場に関する NHK - TV の番組を放映してくださいました。私達はそれについて、意見を述べさせていただきます。

その番組の中で私達 CGT 組合の仲間である Jérôme HIRSON と Eric PECQUEUR が意見を求められていたが、私達はそれについて非常に怒っています。

なぜなら、放映された二人の発言は彼らの真意を全然伝えないからです。彼らの言葉は前後関係から離れて、トヨタに対する CGT 組合の考え方がとても好意に満たされているように響きます。ところが、私達の CGT 労働組合はトヨタの経営者と絶えず戦っていることをお知らせする義務を感じます。

労働条件はとても嘆かわしいのです。労働者に対する圧迫は強いし、解雇が大変多いです。2001 年から、1000 人以上の労働者が解雇されたり、自発的に退職したりしました。失業率の高い地方では、このような状況が有り得るのでしょうか。

トヨタ社を相手取って裁判に訴えているケースも多く、4 件の違法な解雇事件は既にトヨタ社側の負けになりました。

トヨタはフランスへ来たのは、数千人の労働者に「幸せをもたらす」ためではなく、失業率のとても高い所で圧迫されている人々を搾取することによってより高い利潤を得ることなのです。

フィリピンにおけるトヨタの強引なやり方、そして今、インドのトヨタ労働者のストライキに対する経営者のやり方等を見ると、その同じやり方がフランスにも導入されないことがあるのでしょうか。

倫理（と認識）不足の渡辺記者から説明が得られることを希望しながら、NHK 会長殿に私達の心からの挨拶を送ります。

トヨタ CGT 労組
Eric PECQUEUR と Jérôme HIRSON

Copie : 日本の労働組合の仲間達にも同封を送る.